

神舞の途絶えた背景

もともと有明町原田にあった都萬神社は、天文九年の火災で焼失し、現在の場所に移されたそうです。その際に神社の記録は、すべて焼失し、明治44年の大風により神社は倒壊し、一切の記録が不明となりました。このことにより、神舞について、いつごろ、どこから伝わっているのか正確な記録が残っていないません。

言い伝えによると、神舞の祭りでは、神舞面をつけて夕暮れから夜通し舞続け、日の出を見て舞い納めていましたが、太平洋戦争で完全に途絶えてしまったそうです。

神舞の復活まで

幸いなことに野方照日神社で現在も踊られている神舞は、明治26年に都満神宮から伝えられており、神舞の起源、十九手の神舞の舞言、用具の作り方や手ほどきが記されている『神舞解説書』に基づいて忠実に現在まで踊り続けられています。

これに着目し、中野会長自ら、2年半をかけて県内外に残る神舞を調査・研究し、『神舞解説書』を分かりやすく活字化した『伝統芸能解説書』をつくることともに復活の準備を行いました。



▲商工会青年部のみなさん
次世代に引き継ぐ第一歩となりました。



▲薙刀舞



▲田之神舞



▲弓舞



▲四人鬼人舞



▲照日神社春祭り



▲豊栄の舞



▲中野孝喜会長

照日神社春祭り

野方の照日神社では、毎年3月の第2日曜日に春祭りを行なっています。その際には、家内安全・五穀豊穡などを祈願した神舞が、神舞保存会（会長川原辰雄さん）により奉納されます。

途絶えた時期もありましたが、踊り手が高校生や小学生に引き継がれ、伝承活動に取り組みんでいます。

今後、両保存会の活動により、いつまでも伝統芸能が継承され続けることを願っています。

▲平成21年11月2日に国の登録有形文化財に登録された都萬神社